

大好きな家族のこと、みんなに教えたい!

第15回

家族のきずな

2024年受賞作品集



大きく育てていこう、かけがえのない“家族のきずな”

主催／広島県モラロジー協議会

後援／広島市教育委員会・広島市PTA協議会・広島市退職校長会・中国新聞社・中国放送・広島テレビ放送・広島ホームテレビ・テレビ新広島・広島エフエム放送

発行／広島県モラロジー協議会 〒733-0002 広島市西区楠木町 1-12-7-202 TEL/FAX：082-291-0025 E-mail：kkhiroshima1034@gmail.com

家族のきずな

2024年受賞作品集

もくじ

2	あいさつ
3	講評
4	選考・審査員
5	優秀賞作品
18	優良賞作品
38	参加学校名
39	モラロジーとは
40	企業協賛社・個人協賛者

※応募時に掲載許可を得た作品のみ掲載。



主催者あいさつ



広島県モラロジー協議会は、私たちが生活する地域や社会が、より暮らしやすく、笑顔あふれる街になるように、人間性、道徳性を育てるさまざまな教育活動に取り組んでいます。

その活動のひとつである「家族のきずなエッセイ募集」事業は、今年で第15回目を迎え広島市内の小学校83校から4962篇の作品が寄せられました。これは、ひとえにご応募くださいました児童や保護者の皆様、また、担任の先生をはじめ学校や広島市教育委員会の関係者の皆様、さらに、選考に携わっていただいた選考委員の皆様のお力添えの賜物と深謝申し上げます。

平成30年度には小学校で、翌31年度からは中学校で「特別の教科 道徳」が実施され、本格的に道徳教育がスタートしました。この「エッセイ募集」に応募する児童は作品づくりに取り組む過程で、改めて両親や兄弟姉妹、祖父母、曾祖父母のみならず、祖先とのきずなの大切さや命の尊さ、生きることの素晴らしさなど、さまざまな気づきを得ることでしょう。このことが児童の心の成長だけでなく、学校における道徳教育とよりよい家庭づくりのための一助になるものと確信しております。また、先生やご家族の皆様にとって、児童の気持ちを理解したり共有したりするよい機会になると考え、今後も本事業の継続のために尽力して参ります。

末筆ではございますが、後援をいただきました広島市教育委員会、広島市PTA協議会、広島市退職校長会、株式会社中国新聞社、株式会社中国放送、広島テレビ放送株式会社、株式会社広島ホームテレビ、株式会社テレビ新広島、広島エフエム放送株式会社をはじめ、運営にご協力いただきました企業ならびに個人の皆様に厚く御礼申し上げます。

広島県モラロジー協議会 会長 中川 齋



「家族のきずなエッセイ」の選考を終えて

いつの時代も年少者に向けた大人たちの眼差しは、同じ年齢だった頃の自分の姿と重ね合わせているようです。校庭で友人たちと追いかけてこする様子や教室に響く楽しそうな笑い声が、懐かしさとともにその想いを強くするのでしょう。令和の小学5年生たちも、かつての私たちとあまりちがわないのではないかと。

しかし、5年生たちの応募作品を読むと、そうとは限らないことがわかってきます。彼らに、昔の少年少女にはなかった体験やそれに基づく知識があることを、私たちは時に気づかされるのです。

例えば、紙田璃珠さん(『私の大好きな妹』)や平中蜜倖さん(『産まれたての赤ちゃん』)は、妹の誕生に立ち会って、自分でへその緒を切ったことを経験し、そこから生命の大切さを感じ取った人たちです。谷本晴成くん(『僕とひいおじいちゃんの百九十六日間』)のように、余命宣告を受けた曾祖父と過ごす中で「人はいつか人生の終わりが訪れる。だから今を精一杯生き、大切な人へ大きな愛情を持って関わる事が、人生の中で最も大切」だと学んだ人もいます。認知症を正しく理解している人さえ見受けられます。大瀬戸咲紀さん(『やさしい認知症のおばあちゃん』)は、「認知症のおばあちゃんでも、なんでもかんでも忘れてしまっているわけではなく、「たまごやきの作り方」や「私」のことは忘れていないと記しています。

このように、作者たちは、私たち大人が10歳だった頃にはほとんど経験していないことを経験し、そこから生や死の意味を実感しているように思えます。そうした状況をもたらす要因が、社会や家族観の変化にあることは間違いありません。

変化の兆しは日常生活の中にも散見されます。少し前まで、家族が離れ離れになることに寂しさを感じるという作品が珍しくありませんでしたが、最近は事情が異なります。春田信志くん(『ぼくのどこでもドア』)は、単身赴任をしている父親とインターネットを介してゲームで遊び、食卓でも「前と同じように話しながらごはんを食べて」と語っています。私たちの世代にはなかったハグをする習慣をもつ家庭も増えました。毎日母親がハグをしてくれるという山縣京夏さん(『お母さんの生活の支え』)は、「大好きな家族とハグをすると、一日ががんばれそうな気がする」と書いています。「ぎゅっとしてくれると、安心できて、あたたかい気持ちになる」という笠原健叶くん(『お母さんのぎゅっ』)、「母のギュッが私の宝物」だと語る高木愛さん(『母のギュッ』)、そして、母親が「大好きだよ」という言葉とともに「笑顔でぎゅっ私のことをだきしめてくれる」という林里紗さん(『私のたん生日』)も同じです。

私が選考委員になってから10年ばかり経ちましたが、その間の子もたちの意識の変化はけっして小さなものではありません。紹介した作品が示しているように、子どもたちと家族との距離もかつて以上に緊密になっています。少子高齢化がさらに顕著になれば、この傾向は今後ますます強まるのかもしれませんが。AIネイティブ世代となる10年後の小学5年生たちは、いったい、どのような家族やきずなを描くのでしょうか、彼らの作品を読むのが今から楽しみでなりません。今年も多くの優れた作品に出会い、多くのことを学びました。感謝するばかりです。



令和6年度

「家族のきずなエッセイ」作品選考委員会

選考日時／令和6年10月19日(土) 14:00～16:00

選考場所／広島県モラロジー協議会

委員長

越智 貢

広島大学名誉教授

委員

横矢 清人

広島市教育委員会 学校教育部指導第一課指導主事

委員

栗川 文博

広島市PTA協議会 会長

委員

高野 和博

広島市退職校長会

委員

仁科 裕成

中国新聞社 報道センター文化担当記者

委員

中川 喜直

(公財)モラロジー道德教育財団 中国ブロック 部長

委員

中川 齋

広島県モラロジー協議会 会長

委員

宮本 伊知郎

エッセイ募集事業 実行委員長



予備選考委員

光原 達夫

石田 秀孝

柿木 澄男

正傳 彰子

高野 和博

平岡 満恵

広島市退職校長会の6名に予備選考委員としてご尽力いただきました。
ありがとうございました。



広島市長賞	重村 心絆	広島市立八幡東小学校
広島市教育委員会賞	中村 紫絵	広島市立中野小学校
広島市PTA協議会賞	長谷川 夢斗	広島市立古田小学校
広島市退職校長会賞	西城 芸萱	広島市立白島小学校
中国新聞社賞	中森 幾一	広島市立白島小学校
中国放送賞	谷本 晴成	広島市立楽々園小学校
広島テレビ放送賞	仲程 遥	広島市立古市小学校
広島ホームテレビ賞	笠原 健叶	広島市立山本小学校
テレビ新広島賞	日野 莉沙	広島市立山本小学校
広島エフエム放送賞	大迫 愛実	広島市立祇園小学校
モラロジー道德教育財団賞	上野 京祐	広島市立仁保小学校
広島県モラロジー協議会賞	大森 友貴	広島市立大町小学校



親の耳の代わり

広島市立八幡東小学校 重村 心絆

私のお父さんとお母さんは、耳が聞こえません。私には、姉、妹、弟と4人の姉弟がいて、みんなは耳が聞こえる、いわゆるコーダというそうです。そのコーダとは、耳が聞こえない、または聞こえにくい親のもとで育つ子どもです。親子の会話は指文字、かんたんな手話、身ぶり、口話です。スーパーで買い物するときには、お会計のとき、店員さんが「ポイント使いますか?」と聞いたのをうけて、手話をつかって、お母さんに伝えています。どうしても急ぎで電話しないといけないときも代わりにお母さんが伝えたいことを伝えたり、通やくをしています。

お友だちに「大変だね」と言われたことがありました。たしかに大変なときもあるけど、私は親の耳のかわりに役に立てれたし、親にありがとう、助かったよと言われてうれしかったです。

そして、何よりうれしかったことは、お友だちに、「お母さんに指文字であいさつしたいから、どうやるの?」と言われて指文字を教えました。お友だちがお母さんに指文字で、「おじゃまします。」と伝えると、お母さんはうれしそうな顔でうなづきました。お母さんの耳のことを理かいしてくれてうれしかった。



わが家の勝負メシ

広島市立中野小学校 中村 紫絵

私は小さいころから食べるのがとても好きだ。家族も同じでみんな食べるのがとても好きだ。そんなわが家にはとっておきの勝負メシがある。それはチキンカツだ。

なぜチキンカツかというと、キチンと勝つという意味から来てチキンカツ。そんなダジャレから来ているところもおやしギャグ好きなわが家らしい。

どんな時にチキンカツかというと、運動会や大事な試合の時に気合いを入れるために母が作ってくれる。そのチキンカツはとてもおいしくてみんなの大好物だ。

「うまいうまい気合いが入ってきたぞ。」

と言いながらペロリと食べてしまう。そして不思議なことに、大事な試合や運動会の時など結果を出したい時により成績が出ることが多い。それがチキンカツの力なのかは分からないがげんを担ぐという意味で母は勝負時によく作ってくれている。

そういう母のちょっとした気配りにありがとうと思いながら感謝している。私が大人になってかわいい子供ができた時には、私も同じように何か勝負メシを作ってあげたい。そして母にも引き続き勝負時にはチキンカツをお願いしようと思っている。



たくさんのヒーローさん

広島市立古田小学校 長谷川 夢斗

ぼくのお父さんは、ある日突然、血液の病気になって入院しました。入院中は何度も輸血を受けて、お風呂の時間以外はずっとベッドの上で過ごしていました。

ぼくと妹が会いに行くと、お父さんはいつも笑顔でむかえてくれました。お父さんは辛い治りょうをしているのに、どうしていつも笑顔でぼく達をむかえてくれるのか不思議でした。

お父さんにどうしていつも笑顔なのか聞いたら「病気になったのが子ども達じゃなくてよかった。と思っているからだよ」と言っていました。いつもやさしいお父さんは自分が病気になった時でもぼくや妹のことを大切に思ってくれてお父さんってやっぱりすごいなーと思いました。

そして、お父さんから「お父さんがこうして生きていれるのはたくさんの人が血をわけてくれた献血のおかげなんだよ。」と教えてもらいました。ぼくはそれを聞いた時、献血をしてくれた人はヒーローだと思いました。たくさんのヒーローさんのおかげで今も、大好きなお父さんと一緒に過ごせています。ヒーローさんありがとう。ぼくも一人でも多くの人を助けるヒーローになりたいです。



その瞬間、 私は成長しました

広島市立白島小学校 西城 芸萱

草が芽吹き、花が咲き、子鴨が泳ぎを学び、すべてが静かに成長しています。私はいつ成長したのだろうか振り返ってみると、その日、その瞬間の記憶が鮮明に浮かんできます。

ある日、母と私がソファに並んでテレビを見ていた時に、ふと母の髪にたくさんの白髪があることに気づきました。私の印象では、母はいつも若くて美しかったです。でも、今日、その考えが打ち砕かれ、母も年を取るのだと気付きました。私は母に心配していることを伝えると、母は笑って「花はまた咲くけれど、人は若さを取り戻すことはできないのよ。お母さんも年を取っていくんだよ」と慰めてくれました。その瞬間、私ははっと気づきました。母はずっとこの家のために尽力してきました。それが母の老化を加速させたかもしれません。そう思うと、とてもつらくなりました。そこで、私はこれからは自分にできることを自分で行い、母に心配をかけないようにしようと誓いました。

その瞬間は、自分が今までで最も成長した瞬間と思います。母のために何かを分担していく必要があると実感し、私の努力を通じて母を少しでも楽にすることができ、そして、時間がゆっくりと流れることを願いました。



二人の姉の優しさと 家族の絆

広島市立白島小学校 中森 幾一

ぼくには、二人の姉がいて上の姉は十二才、下の姉は、九才はなれています。

今年の夏休みも、ぼくが一人にならないように両親と相談して大学の授業やアルバイトの時間を調整して昼食をぼくと一緒に準備して過ごしてくれました。五年生になって少し忙しいのに悪いなと思うようになったから、

「忙しいのに大丈夫？自分のことやってよ。」

と言うと、姉達は二人とも、

「幾一がかわいいからよ。気にしないで。」

と言ってくれたから、くすぐったいような温かい気持ちになりました。

今年の初めに父方の祖父が亡くなり、両親もぼく達三人も悲しい気持ちの中お葬式に参列しました。ぼくは祖父と過ごした色々な事を思い出して胸がぎゅっと痛くなって涙が止まりませんでした。最後の時、三人で何度もお花を棺に入れて写真も入れてお別れする間二人の姉がぼくの手をずっとしっかり握ってはなさないでいてくれました。ぼく一人が悲しい訳じゃないと思うと安心することができました。どんな時も一緒にいてくれる二人はぼくにとって本当に大切な家族です。もう少しではなれてしまうけど、ぼくは一緒に過ごした時間を絶対に忘れない。大好きだから。



僕とひいおじいちゃんの 百九十六日間

広島市立楽々園小学校 谷本 晴成

僕のひいおじいちゃんは今年癌で亡くなった。病気が分かった時には余命三か月で、僕は悲しくて胸が張り裂けそうだった。お見舞いに行くといつも「来てくれてありがとね。すぐ元気になるよ。」と言ってくれたけど、それは叶わないと分かっていたから、僕はその言葉が辛かった。ひいおじいちゃんはいつも笑顔で、昔の話や小さい時の話をしてくれ、僕のつまらない話にも頷きながら聞いてくれた。山育ちのおじいちゃんは海が見える病室がお気に入り、よく嬉しそうに眺めていた。そんな姿を見ると僕も嬉しくなる。温かくて大きな手を握り、いつまでもこんな時間が続いて欲しいと願った。最後の日に会えたのは本当に幸運だったと思う。「また明日も来るね。」僕がそう言うと、わずかに頷くのが分かった。一時間後ひいおじいちゃんは天国へ旅立った。余命宣告から百九十六日の事だった。不思議と穏やかな気持ちだったのは、きっとひいおじいちゃんと過ごした日々が濃厚で自分なりにしっかりと向き合えたからだと思う。人はいつか人生の終わりが訪れる。だから今を精一杯生き、大切な人へ大きな愛情を持って関わる事が、人生の中で最も大切なのだとひいおじいちゃんから教えてもらった。



お母さんのぎゅっ

広島市立山本小学校 笠原 健叶

ぼくが大好きな本の中に、「あなたがだいすき」という絵本があります。ぼくと兄が、小さいころから、お母さんがよく読んでくれた絵本です。

その絵本の内容は、いろいろな動物たちが出てきて、やさしくて、ほっと安心する言葉をたくさん言ってくれます。例えば、「いつだって あなたの みかた」や「いつでも あなたを まもってあげる」などがあります。

お母さんは、いつも、「あなた」の部分で、ぼくや兄の名前に変えて読んでくれました。悲しい時やさびしい時、いやな気持ちになったとき、お母さんにしかられた時に読んでくれて最後に必ずぎゅっとしてくれました。ぎゅっとしてくれると、安心できて、あたたかい気持ちになりました。

お母さんは、「あなたがだいすき」を読んだ時以外でも、よくぎゅっとしてくれます。

朝お母さんとけんかをして、仲直りできないまま登校しようとしたらげんかんで、ぎゅっとしてくれて、とても安心できました。

ぼくにとって、お母さんの「ぎゅっ」は、幸せな気持ちにしてくれる大切なことです。



ごめんなさい

広島市立山本小学校 日野 莉沙

私は、帰ると約束した時間を破って家に帰ったことがある。その時の私は、

「怒られてしまうんだろうな」

それしか、頭に浮かばなかった。

恐る恐る戸を開けた。家に入ってすぐ母に、

「お父さんが帰ったら話し合おうね。」

と、言われた。「父が帰ったらおこられる」

と、思うとこわかった。でも、違った。私が思っていたおこられ方とは、まったく違った。

母は、声をふるわせながら、

「約束を破ることはいけないこと。全然、帰ってこないから心配したんだよ。待っている方は何が起きているか分からないんだよ。」

と、言った。父も、次からどうするのか、何がどういけなかったのかを、私に優しく問いかけてくれた。私は、父と母の優しさがいたいほど伝わってきて、涙ぐみながら、

「ごめんなさい。」

と、言った。

父も母も、私をととても大切に思い、私としんけんにむき合ってくれているからこそ、話し合いの場をもうけてくれている。愛がなければ、心配なんてしてくれない。お父さん、お母さん、私を大切に育ててくれてありがとう。



たよれる姉

広島市立祇園小学校 大迫 愛実

私はバスケットボールを火曜日の夜七時から九時まで習っている。

その日は、両親が仕事でおそくなって、むかえの時間に間に合わなかった。最初は、もうそろそろむかえに来てくれるだろうと思っていたが、どれだけ待っても両親は来なかった。いつものちゅう車場の近くに移動して、一人でどうしたらいいのかと、と方にくれた。だんだん不安になって、家にいる中二の姉に必死にメールを送り続けた。少しすると、電話が鳴った。メールにき読の文字は表示されていなかったなので、半泣きになりながら、

「パパもママも来ない…。」

と、じょうきょうを説明した。姉は、

「すぐにむかえに行くわ！」

と、家を出る音と走る音がけい帯電話から聞こえてきた。五分ほどすると、姉が息を切らしながら全力しっ走でかけつけてくれた。そのすがたを見て安心してむねがいっぱいになり、なみだがボロボロ出た。

この時の事は、今でもうれしく思っているし、しっかりと覚えている。私もいつか、姉みたいな家族思いでたよれる人になりたい。



おばあちゃんの言葉

広島市立仁保小学校 上野 京祐

ぼくは、いま反抗期です。お母さんの言うことをきかず、勉強も嫌がり、習い事をサボっています。お母さんは、毎日怒っていて、たまに泣いてます。それでもぼくの反抗は、止まりません。なぜ反抗してしまうのか、僕にも分かりません。

お母さんの実家がある大阪にお盆に行きました。おじいちゃんとおばあちゃんと、楽しく過ごしましたが、広島に戻る日、おばあちゃんが、僕に言いました。

「毎日毎日、反抗しても、お母さんが怒ってくれるのは、ちゃんとした大人になってほしいからだよ。親は自分の子供が一番大事だからだよ。じいちゃんとおばあちゃんにとって一番大事なのは、私たちの子供であるあなたのお母さんです。孫でも、私たちの大事な娘を悲しませることは、許しません。お母さんのことを大切にしてください。」

ぼくは、これ聞いて親にとって何歳になっても子供のことは、心配で、幸せでいてほしいんだなあと思いました。これからは、お母さんのことを怒らせたり、泣かせたりしないように、努力していつまでもお母さんに大切に思ってもらえるような子供になろうと思います。



天国にいるはる君へ

広島市立大町小学校 大森 友貴

今日、お腹の中にいた君の写真を見せてもらいました。目をこすっているのかな？おしゃぶりをしているのかな？私は、君が出てくることをずっと楽しみに待っていました。そして「はる」という名前をつけました。お父さんとお母さんに「素敵な名前だね。」と言われて決定しました。

でも、君はお母さんのお腹の中では元気だったのに、生まれてくる時に亡くなったと聞いて悲しかったです。

「なんで？なんで？」

と、私はいっぱい泣きました。

お母さんをお願いして、はる君の骨も見せてもらいました。いつも骨つぼは見ているけど、初めて開けてもらいました。ひいおじいちゃんの骨と、はる君の骨を比べたら、びっくりするくらい小さくて、今にもこわれそうでした。手形と足形も大切にっていました。生まれた直後の写真も見せてもらって、涙が出てきました。

「お～い、天国のはる君、ひいおじいちゃんとサッカーしてますか？お姉ちゃんはあらためて、命の大切さを感じたよ！はる君の分まで絶対に長生きするから、見守っていてね！」



わたしの名前

広島市立可部南小学校 松藤 栞奈

わたしの名前は栞奈(カンナ)といいます。この名前をつけてくれたのはお父さんです。

わたしは名前の由来をお父さんに聞きました。

「カンナというのは、七十九年前に広島に落とされた原爆の後、七十五年間は草木も生えないと言われていたけれど、一ヵ月後の九月にいち早く咲いた花で、復興への希望と光を与えてくれた花の名前だから、栞奈もカンナの花のように明るく元気で周りの人が笑顔になれるような人になってほしいからカンナとつけたんだよ。」と、教えてくれました。わたしの名前には平和への願いがこめられてい

ることを知りました。だから、大人になったら広島での出来事を知ってもらえるように伝えていきたいです。そして、周りの人が笑顔になれるような人になりたいです。世界ではまだ戦争をしている国があるので、平和のシンボルになっているカンナの花がたくさんふえて、世界が平和になってほしいです。

名前の由来を聞いてわたしは、お父さんに栞奈という名前をつけてくれてありがとうと伝えたいです。

これからも、栞奈という名前と、カンナの花を大切にしていきたいです。



弟へ最初のプレゼント

広島市立中筋小学校 吉岡 瑛太

ぼくが小学一年生の時、七つ下の弟が生まれました。男の子だと分かった時、むねが高鳴りました。

ある時、お母さんがアルバムを見せてくれました。そこには、泣いたり笑ったりするぼくが中心にいる、ほほえましい家族の風景がたくさんありました。ここに弟が加わる日をまだかまだかと待っていました。そんなぼくを見てお母さんは、「名前をつけてもいいよ。」

と言ってくれ、ぼくはいっぱいなやんで、「こう。」と名付けました。ぼくと両親の思いを込めた漢字を両親が考えてくれました。

産まれてきた弟は、小さくてやわらかくてとてもかわかったのを覚えています。そんな弟にぼくから名前をプレゼントしました。

そんな弟も、もう三才。わがままで、甘えん坊に成長しました。ちょっと困るとうそ泣きをして、ぼくに助けを求めます。時々またか、と思う日もあるけど弟は、やっぱり愛おしいそんざいです。ぼくの付けた名前の通りに、明るく元気いっぱい成長している弟とたくさん思い出を、積み重ねていきたいです。こうくん、大きくなったらいっしょにサッカーしようね。



ぼくのスーパーお兄ちゃん

広島市立昆沙門台小学校 大倉 圭翼

ぼくには、九才年上のお兄ちゃんがあります。お兄ちゃんは、会話や勉強がむずかしいです。生きていくのにだれかの助けや力が必要です。だから、お兄ちゃんが出来ないことは、家族で協力して助け合っています。

けれども、イタズラが好きなお兄ちゃんは、ぼくの教科書やプリントを破ったりするし、家で宿題をすることもないので、どうしてぼくだけやらないといけないのかと腹が立つ時もあります。そんな時はお母さんの、「圭翼はお兄ちゃんに選ばれて生まれて来たんだよ。人にはそれぞれ大事な役わりがあるんだよ。」

という言葉をいつも思い出します。

お兄ちゃんは、見た目には何もできないかもしれないけど、誰よりも思いやりがあって、やさしい心を持っていると思います。ぼくはお兄ちゃんから、誰でも大切な心を持っていると教えてもらったので、ぼくも見た目で判断せず、その人の心を大切にできる人になりたいです。ぼくは、お兄ちゃんの弟になれて本当に良かったです。

お兄ちゃん、ぼくを選んでくれてありがとう!!



ぼくのどこでもドア

広島市立高須小学校 春田 信志

ぼくのお父さんは、福岡にいます。家族とはなれて一人で福岡でがんばって仕事をしてくれています。

お父さんが単身ふ任をすることになって、ぼくはとてもさみしかったです。今までずっと一緒にいたお父さんとはなれることが悲しかったです。

少し前までは、電話で声を聞き、ラインでやりとりをしていました。

ネット環境が整い、簡単にテレビ電話でお父さんの顔を見ながら話すことができるようになりました。遠くにいるのに近くにいるように感じます。ネットをつなげて一緒にゲー

ムをすることができます。

毎日の食たくにお父さんの顔と声があります。前と同じように話しながらごはんを食べています。

ネットが僕たちの距離をちぢめてくれました。

時々、お父さんとネットゲームをやりすぎてお母さんに怒られることがあります。でも、ネット環境の発展が、僕たち家族の食たくを明るくしてくれました。

まるで、どこでもドアがあるようでした。



命のきずな

広島市立落合小学校 渡部 凜太郎

「もうすぐ赤ちゃんが生まれるよ。」お母さんからそう聞いたとき、ぼくはむねがドキドキしました。楽しみな気持ちが半分、もう半分はこれからどうなるのだろうと少し不安な気持ちでした。

お母さんのおなかは日に日に大きくなり、あっという間に赤ちゃんが生まれる日になりました。夜お母さんが入院したとき、ぼくはすごく心配でねれないほどでした。よく朝お父さんに赤ちゃんが無事に生まれたことを聞いて、安心しました。そして病院に行ってみると小さくて赤くてしわくちゃなかわいいぼくの弟がいました。弟をだっこすると小さい

のに重くてあたたかかったです。弟の手をぎゅっとすると、小さい手でぎゅっとにぎってくれました。ぼくは本当に生まれたんだと思いました。ぼくはお母さんに「弟を生んでくれてありがとう。」と言いました。そしてぼくもこんな風にお母さんが一生けん命生んでくれたんだなと思いました。

弟は今一さいになり、目が合うとにこっと笑うようになりました。弟の笑顔を見ると幸せな気持ちになってきます。弟が生まれたことで家族のきずながより深まったと思います。弟はぼくの宝物です。



ぼくのもってかわいい妹

広島市立緑井小学校 王野 心大朗

ぼくの家族は四年生までお父さん、お母さん、二さい下の弟の四人家族だった。

四年生の春の終わりごろのある日、とつ然お母さんから「お中に赤ちゃんが来てくれたんだよ」と聞かされた。それを聞いたぼくはうれしいとびっくりが同時におしよせてきて、お母さんがただ太っただけではないかと信じられなかった。

数日後、家族で病院に行ってお母さんのお中のエコーで赤ちゃんらしき物が見えた。本当に自分に兄弟がふえるんだと感動した。それと同時にお母さんが出産するとき亡くなったりしないのか、赤ちゃんにしょう害はない

のか不安になった。それからは家族でお母さんをささえて二月にかわいい妹が生まれた。お母さんも赤ちゃんも元気でぼくはとても安心した。赤ちゃんが家に帰ってきて、泣いて飲んでねるをくり返してとても大変なんだと分かった。二十四時間赤ちゃんのお世話には休みがないと知った。妹が生まれてきてくれたおかげでお父さんとお母さんがどんなに大変で、大切にぼくたちのことを育ててくれたのが少し分かった気がする。日に日にかわいくなっている妹にはこれからもどんどん大きく元気に育ってほしい。ありがとう。



家族への手紙

広島市立石内北小学校 塩澤 千咲希

ある日、お母さんがお兄ちゃんの部屋をそうじしていると「家族へ」と書かれたふうとうが出てきました。ふうとうの中には、お兄ちゃんから家族一人一人に宛てた手紙が入っていました。そこには、お父さんやお母さんへの感謝の言葉や、小さいお兄ちゃんへのはげましの言葉が書かれていました。私への手紙には小さかった私がどんどん大きくなっていることが出来るようになったことや、これから高学年になって学校のリーダーになるためのアドバイス、時間を大切にしているいろんなことをがんばってねと応援してくれる言葉がたくさん書いてありました。私とお兄ちゃ

んはけんかをすることもあるけど、今まで私の成長のを見てくれていたことを知って、嬉しさと感動で泣いてしまいました。

お兄ちゃんは今年、高校生になりました。この手紙は本当は、中学校の卒業式の前に家族にわたさなければいけなかったものだったそうだけど恥ずかしくてわたせなかったのかなと思います。

ふだんは当たり前のように一緒にすごしている家族だけど、その当たり前の幸せを忘れずに、私はこれからも家族を大切にしていこうと思います。



おじいちゃんのけいれい

広島市立楠那小学校 伊藤 聖七

ぼくは、おじいちゃんのが大好きです。ぼくはいつも、おじいちゃんにたよっていました。ぼくの好きなおかしなどをたくさん買ってくれました。いやなことや困ったことなどすぐに相談にのってくれました。

ぼくが、どこかへ出かける時にいつもかさずおじいちゃんが、「けいれい」と言って、けいれいポーズをしてくれました。おじいちゃんのけいれいポーズは、元気をつけてくれます。「今日、行きたくないな」という日でも、なんだか笑顔になってしまいます。おじいちゃんしかないま法のけいれいです。

でも、おじいちゃんのがのどのがんになって

話せなくなっていました。だけど、紙に書いて気持ちを伝え合って会話をしました。「けいれい」という言葉が言えなくなってしまうけれど、けいれいポーズをしてくれました。今までのけいれいポーズとは、なにかちがう感じがしました。いつもより気持ちが強く感じました。おじいちゃんは天国に行ってしまったけど、このけいれいポーズは今でも心の中にはっきり残っています。おじいちゃんから、心でも気持ちはしっかり伝わることを学びました。



私の大切な宝物

広島市立仁保小学校 田岡 未羽

私のお母さんは、たん生日になると、毎年、一年間の写真を集めて、アルバムにしてくれます。このアルバムは、絵本みたいに、とても読みやすく、かわいいアルバムです。私は、毎年このアルバムが楽しみで、お母さんに、今年も絶対作ってほしいと、たん生日前になるといつもお願いしています。そのくらいこのアルバムは、私にとって、一年間の思い出や成長記録が詰まっている、大切な宝物です。今でも、小さいころのアルバムを、

「小さかったなあ、大きくなったなあ。」と、なつかしく見返しています。アルバムは、写真だけではなく、写真の上に一言メッセー

ジが書いてあります。そのメッセージの一言一言から、お母さんの愛情や思いを感じます。一番最後のページには、お父さんや弟からの手紙も書かれています。これもまた、すごくうれしいです。

私の大切な宝物は、お母さん、お父さん、弟のたくさんな愛情からできているたん生日アルバムです。どんなにいそがしくても、毎年必ずこのたん生日アルバムを家族が作ってくれます。このアルバムを見ると、元気が出て、自分の事を大好きだと思えることができます。ありがとうございます!!



家族の言った言葉

広島市立口田東小学校 高西 杏奈

私は、家族にいろいろな言葉をもらって、うれしかったり、やくにたっています。まず、一つ目は、お母さんがふつうに言ってくれる「ありがとう。」です。買いものや料理など、たのまれたことをやって、かえってくるたびに言ってくれるので、それがうれしいです。二つ目は、お父さんが言ってくれる、「まず、自分でやってみてから、質問しなさい。」です。それによって、自分はあまり考えれていないことにも気づけるし、私をきづかってくれていることが分かります。なので、すごくたすかっています。最後に三つ目は、おばあちゃんが言ってくれた、「〇〇すぎは、だめだよ。」です。例えば、や

せすぎ、がんばりすぎ、食べすぎなど、あまりにもやりすぎると、体のふたんやだめなことです。やらないといけないことがあったとしても、体の健康には気をつけ、やりすぎていることを少しかるくしていくことが大切だと思います。このように、家族がいたことによって、分かったり、感情を表したり、考えることができ、今をすごすためになっています。今、私が、この地球にいることは、全部、家族のおかげなんだと、思いました。これからも、今ある幸せの一つ、家族を大切に生きていきたいと思えます。



家族のきずな

広島市立温品小学校 細川 いち花

私は、家族に悩みを相談すると心が晴れる。相談に乗ってくれると心が晴れるのは誰でもそうだが、私の家族は意見を言った後に、

「自分が思うようにしていいよ。」と私の意見をそん重してくれる。家族がそうしてくれたときに

「私を大切にしてくれているな。」と思い、きずなを感じる。家族同士でも、話し合いしているときは必ず相談してきた人の意見をそん重している。まちがった考え方をしていると、まちがっていると言うし、やりたいたいことがあったらなるべくやらしてくれる。家族で一つのことを乗り越えようとしている

と思う。けんかをしながらも 支えあって家族みんなで成長している。一人一人を大切に自由にしてすごして私たちらしく、くらしている。そんな家族といから、私は幸せに出会えたのかもしれない。本当に大切で大好きな家族のもとに生まれてきて本当によかったと思う。おだやかでやさしいお父さん、子どもをすごく大切にしているお母さん、そしてけんかもするけど、仲のいいお姉ちゃん、そんな家族と何十年先もずっとずっと笑いあっていたい。



お母さんからもらう安心感

広島市立温品小学校 中村 音芭

私がようち園に通っていたころから小学校低学年までお母さんが絵本を読んでくれた。

毎日自分で絵本を選び、読んでもらうこの時間が私の楽しみの一つだった。時々お母さんが早口で読む時は、

「今日はずかしているのかな。」

笑顔で読む時は、

「良いことがあったのかな。」

と色々な感情が声から分かった。毎日といっても時々いそがしくて読んでもらえない時もあった。そんな時は、なぜかこわかった。今思い返してもその時の気持ちは分からないけ

ど、一つだけ分かることがある。それは、お母さんに絵本を読んでもらうと安心してぐっすりねむれたこと。その日、いやなことがあっても次の日にはわすれて楽しくようち園に通うことができた。

絵本を読んでもらうことはもちろんうれしかったけど、お母さんの声を聞いてねむることが何より安心できる大切な時間だった。

自分がいつか母親になった時、自分の子どもにもたくさんの絵本を読んであげたいと思った。お母さん、今も安心して学校へ通っているよ。



きらいだけど好きな兄

広島市立大町小学校 川手 美来奈

私の、勉強中勝手に、テレビをつけてくる。ねている時、ほっぺたをつまんでくる。毛布をうばってくる。家の中をパンツ一枚でうろうろする。これ、全部お兄ちゃんの事だ。

はっきり言って、気持ち悪いし、いやだ。でも、ときどき好きな時もある。おやつを買ってきてくれる。スクランブルエッグを作ってくれる。私の代わりに、きれいな野菜を食べさせてくれる。なにより、野球をしている姿は、カッコいい。

この夏、兄の最後の大会に応えんに行った。ヒットを打ったしゅんかん心がドキッとした。優勝には、手がとどかなかった。本当に

悔しかった。

お兄ちゃんは、中学三年生。春からは、家を出て遠くの、高校に行きそうだ。家は、静かになりそうで、少しうれしい。でも、実は、ほんの少し、さびしい。だから、今のうちに、いっぱい遊んでおこう。キャッチボールをたくさんしたい。テレビを見てゲラゲラ笑いたい。

それが私の、本音だ。



私の大好きな妹

広島市立牛田新町小学校 紙田 璃珠

私には、十才年のはなれた妹がいます。名前は新菜(ニナ)です。二十七日に生まれたので新菜になりました。新菜が生まれた時、私はずっとママのそばにいて、生まれるしゅん間にも立ち合うことができました。そして、へその緒をハサミで切るというきちょうな体験もしました。母はしんどそうだったけれど、とても幸せそうでした。私もこうして生まれてきたのかと思うと、なみだが出そうになりました。ずっと一人っ子だった私は、妹がほしかったのでとてもうれしかったです。でも一才半になった今、妹はやんちゃでやりたい放題です。勉強のじゃまはするし、どこにで

もついてきます。うっとおしいと思うこともたくさんありますが、笑顔で「ねえね」と言って走って来てくれるとかわいくて仕方ありません。これからも、一緒にお風呂に入ったり、絵本を読んであげたり、たくさん遊んであげたいです。もう少し大きくなったら、一緒にショッピングに行ったり、U.S.Jに行きたいです。他にも、たくさん思い出を作りたいです。

私にとって妹は世界で一番かわいくて、大切なそんざいです。



けんかしても大好きな弟

広島市立中野小学校 瀧口 遥生

四年前、弟が生まれてぼくは兄になった。親せきで一番小さかったので兄になれてうれしかった。

今、弟は四才、やんちゃで自分勝手に時々生意気な事を言う。そんな時は、ぼくがすぐ怒って弟とけんかになる。そして弟は泣いて母に言い、ぼくが母から怒られる。この前もぼくが絵をかこうとした時に弟が自分の紙に落描きをしてきた。ぼくが怒ってついたたいてしまった。それを見ていた母からたたくとぼくだけが怒られて、ついにぼく発して、「いつもぼくだけが怒られる。」とぼくは、思っていた事をすべて言った。母は、「お兄ちゃん

だからゆるしてあげなさい。」と言った。そして、もやもやした気持ちでいると、弟は、何事もなかったように「遥生兄ちゃん、一緒に遊ぼう。」と言ってくれた。ぼくは、怒っている事を忘れて、「いいよ。」と言って一緒に遊んでしまう。さっきまであんなに怒っていたのになぜだろうと考えた。

ぼくは、けんかしてもすぐに仲直りするのには、お兄ちゃんと慕ってくれる弟がかわいいからだ。これからも毎日けんかするかもしれないけど、大事な弟だ。ずっとずっと仲良くでいたい。



ぼくの家族

広島市立庚午小学校 山本 輝真

ぼくは、四人兄弟だ。すぐばかにしてくる兄と、すぐ泣く妹と、すぐいじけるけどかわいい弟だ。いつもけんかをする兄弟だけど、協力する時がある。それは、お父さんが帰ってくる足音がした時だ。野生動物がてきに見つかった時のようにいっせいに動きだす。いつもテレビだけ見ている弟さえもいっしょに片づけてくれる。いつもばかにしてくる兄が指示を出し、ぼくと妹は兄の言う通りに動く。この時ばかりは、指示を出す兄をすごいと思う。ただ、四人思いはいっしょで、お父さんに怒られたくないのだ。でも、いつもお父さんは、わらいながら入ってくるので、ぼくたち

の行動は、ばれていると思う。テレビばかり見ずに、やることをやればいいのだけど、ぼくは、この1日1回の時間がハラハラドキドキで大好きだ。

こんなかんじの家族でよくけんかしたり、協力する時がある、兄と妹と弟とお母さんもお父さんも大好きだ。



些細な私のできること

広島市立祇園小学校 永松 葵

私のお父さんは今、足の病気の治療中です。なので、できる事に限りがあります。例えば長時間歩き回る事などです。だから、私のできる事で手伝いをしています。ゴミ出しや荷物運びをしています。最近始めた手伝いは、ご飯作りをすることです。すまし汁やたまご焼きが作れるようになったのも、この手伝いがきっかけです。私がつ作ったご飯を「おいしい」と言って食べてくれるのがとてもうれしいです。お父さんのできる事が減る分お母さんが頑張っている事を知っているのでこんな事しかできない自分が情け無いです。でも同時に私の些細な手伝いが役に立っている事も

知っているのです、自分のできる事で家族にこうけんしたいです。またお父さんの病気が治っていろんな所に行ける日々が戻るといいなと思います。



スーパーかっこいいおばあちゃん

広島市立舟入小学校 河村 泉里

私のおばあちゃんは何でもできる、まるでオリンピック選手だ。茶道、華道、家庭菜園から着物の着付けまでしかもどれも一流だ。そんなおばあちゃんから学んだことは、数えきれないほどある。

その中でも、毎年恒例になっている、おばあちゃん家での習字合宿。三、四年生では共に賞をとれたのだから、私の師匠だっ。簡単に賞をとれるほど甘くないのはみんなも知ってるはずだ。

四年生の夏、毎年恒例の習字合宿でのこと。「墨付けすぎ！、筆立てんさい！、姿勢！」と、何度も怒られた。投げ出したくもな

し、涙をこらえながらも、必死に頑張った。そして最後の一枚、今までと違う感覚でスラスラ書けるタイミングがあった。無心で書いた。周りの音なんて一切聞こえない。

「上手」

最初に聞いたおばあちゃん言葉。今でも覚えている。鳥肌が立った。

おばあちゃんの恐ろしい指導をたえ抜いて勝ち取った賞だ。

私にとってスーパーかっこいいおばあちゃん。大好きなおばあちゃんから学んだ中の宝物の思い出だ。



家族の手紙

広島市立可部南小学校 村田 咲瑛

私は家族に手紙を書くのが好きです。特に家族のたん生日や記念日の時は、たくさん喜んでほしいのがんばって手作りのカードを作ったり折り紙や絵をかいたりしてわたしたりしています。

中でも一番よく手紙を書いてわたしているのは、お母さんにです。お母さんには、小さいころから絵をかいたり手紙をよく書きました。喜んでほしくて書く事もありますが、おこられてなんだか謝まりにくい時に、自分の気持ちを書いて仲直りする事もありました。お母さんは返事を書いてくれたり、いやな事があったり運動会のリレーの選手に選ば

れてきんちょうしていた時にも応えんの手紙をくれました。またお父さんは仕事で帰ってくる事がおそいのでうれしい事があった時等に手紙を書いて知らせます。たん生日には家族やおばあちゃんからももらいます。弟は絵の手紙をくれる事が多いのですが中でも弟が小さいころ家族みんなの顔をかいてくれた手紙がとってもかわいいので、一番のお気に入りです。

家族との手紙は私のお守りのような宝物です。これからも手紙を書いて家族みんなとずっと仲良くつながっていたいと思っています。



いつまでもつながる命

広島市立山本小学校 山田 玲凜

「おばあちゃん、何してるの。」
「おむかえ団子を作っているんだよ。」
今年の夏、私はおばあちゃんの家に行きました。お盆前には各家庭がお寺にせがき旗を持っていき、おがんでもらっている間にお団子作りをするそうです。ご先祖様をおむかえするためです。私は家族でおはか参りをしてから、お寺にせがき旗をとりに行きました。見たことのないすい色紙で作られたものでした。これでご先祖様が帰ってくる準備ができたと思いました。家に帰ると、十五日の夜には盆おどりがあり、ご先祖様のくようのためにおどるということを教えてもらいました。

盆おどりの日です。同じ場所でお母さんもおじいちゃんもひいおじいちゃんも子どものころに盆おどりをしていたと思うと不思議な気持ちでした。今年は大きな輪ができてみんなが笑顔でおどっていました。私も一生けん命に感謝の気持ちをこめて一時間以上おどりました。

この伝とうが受けつがれていき、みんなの命がつながっていると思うと、今を大切に生きようと思いました。ご先祖様から受けついだ私の命も他の人の命も全て大事だと感じました。これからも強い気持ちで生きていきます。



おじいちゃんへの手紙

広島市立中筋小学校 正田 一真

僕のおじいちゃんは、しまなみ海道の向こう側の老人施設にいます。なかなか会えないけど、あうたびに「背が高くなったな。野球はどこを守っているんか。」と聞いてきます。そして、初めて見せるけど。と言って、ファイルをもってきます。そのファイルには、ぼくが今までに送った敬老のお祝いの手紙やお誕生日のお祝いの手紙が入っています。おじいちゃんはファイルを指さしながら、「この手紙を大切にしている。次手紙はまだか。」と聞いてきます。僕は、おじいちゃんの初めてをあと何回聞くのかな。と思いながら苦笑いしています。けれど、僕の手紙を楽しみにして

くれているのはうれしかったし、書く内容がいつもいっしょで申し訳ないと反省しました。僕の学校での出来事や野球のことを手紙の内容にして、おじいちゃんがもっと楽しんでもらえるようにしようと思いました。おじいちゃんは、今のことより昔のことのほうがよく覚えているので、僕の手紙でおじいちゃんの少年時代を思い出してほしいし、次に会うときはその思い出を話してくれたらうれしいです。



家族みんなの本だな

広島市立石内小学校 堀田 美花

わたしは、本をよく読みます。ある日、本を買って帰ると、本だながまんぱんになっていて、本が入らないことに気が付きました。その日は休日でした。だから、いっぱい本を読もうとしていたので、困っていると、お母さんがいないことに気が付きました。さがしてみると、ひとりもくもく木材を切っているすがたを見つけました。おどろいて、何で木材を切っているのか聞いてみました。すると、「今日は本を買ってきていたのに、本を入れるところなかったでしょ。だから本をいっぱい入れられる本だなをつくっとるんよ。」と言いました。その言葉を聞いたら、むねが

熱くなり、本だなを作るのを手伝おう!!と思いました。私と兄たちみんなで協力して、ついに立派な本だなが出来上がりました。できた時は達成感と、よろこびでいっぱいでした。本だなに本を入れてみると、本がすっと入ってとても本だながかっよくみえました。家族みんなよろこんでいました。家族みんなが本を読むのやおさめるのがこまらないように、本だなを作ってくれたお母さんがとてもかがやいてみえました。わたしもしよう来大人になったら、あの時のお母さんみたいに人をよろこばせてあげる人になりたいです。



私の家族

広島市立東野小学校 松尾 はなの

私の家族は、父と母、男子四人、女子二人の八人家族だ。友達に話すと、いつもおどろかれる。そして、必ず「にぎやかそうでいいね。」と言われる。

もちろん、にぎやかではある。いつも誰かが何かしゃべっている。たん生日会は八回もできる。

でも、良い事ばかりではない。弟はうるさいし、おいしい物はいつも六等分。じゃんけんしているのにもめる。旅行といえば、キャンプや少年自然の家。高級ホテルなんて夢のまた夢だ。

だけど、やっぱり私はこの家に生まれて幸せだと思う。うるさい弟がいるから毎日笑いが絶えないし、おいしい物はみんなで食べるともっとおいしい。少年自然の家やキャンプでの思い出は、大人になっても決して忘れないだろう。

忙しくても、疲れていても、いつも子どもの事を優先してくれるお父さん、お母さん。いつもありがとう。私は幸せです。



私は妹

広島市立大州小学校 藤江 咲帆

「うぎゃー」力強い声で妹が生まれてきたのは、今から約三年前のことです。

まさか私が、お姉ちゃんになるとは、思いませんでした。

なぜなら、生まれてきてから私はずっと、妹だったからです。

急にお姉ちゃんになり、妹が生まれてからは、妹中心の生活になりました。

私は妹がうらやましく、そして悲しい気持ちになりました。

けれど、妹が私に向けて笑ってくれる顔がとても可愛くて、ミルクをあげたり離乳食を食べさせる手伝いをしたり、お風呂に一緒に入った

りすると、段々と妹のことが可愛くてたまらないと思うようになりました。

と同時にお兄ちゃんは、私が生まれてきてからずっとこんな気持ちだったのかなと思いました。

お兄ちゃんとはケンカもするけど、一緒に楽しく遊んだ思い出が沢山あります。

お母さんは、「三人とも宝物」と言っていました。

私はお兄ちゃんと妹の気持ちが分かる、特別な存在だと思います。



大好きだったおじいちゃん

広島市立矢野西小学校 堤 彩波

私が1年生のとき、私の事を一番かわいがってくれたおじいちゃんが亡くなりました。「すぐ元気になって帰ってくるからね。」と、病院に行ったおじいちゃんは、「家」ではなく、「天国」に帰ってしまいました。

亡くなる日は、お昼におじいちゃんから電話がかかってきて、「レモンとキウイがほしい」と言われたので、おばあちゃんといっしょに、レモンとキウイをもっていきました。

そして夕方になると、病院から電話がかかってきて、「亡くなりました」と言われました。その時、私は、頭の中が真っ白になって、泣く事しかできませんでした。私は、「え、帰って

くるって、言ったじゃん…私を置いてかないでよ…」そう、思いました。

私は、この出来事から、人の命は、言葉では表せないくらい、大事だということが分かりました。それと、どれだけ元気な人でも、亡くなってしまうと、もう、二度と、帰ってこれない、という切なさを学びました。これからも、もっともっと、人を大切にしたいと思いました。



命の大切さ

広島市立可部小学校 古前 咲莉

私は二〇一四年、八月二十日の夜中、まだ一才にもなっていない時に土砂災害にいました。私は覚えていませんが、お母さんとお父さんが、その土砂災害について話してくれました。

お母さんとお父さんが災害に気付いたのは、近所の人から、

「車が流されてます。」

と電話がかかってきた時でした。その時、二階にいたのでまどから外を見ると家の庭が土砂で川のようになっていました。にげるために私と兄をだいて一階におりると、家の中にひざ上までつかるくらい土砂が入ってきてい

たそうです。私たちは近所の人に助けてもらい、どうにかおばあちゃんの家ひなんし、助かりました。

私が助かったのは、たくさん人にささえられ、助けられたからです。

お父さんとお母さんのことを私はすごいと思います。なぜなら、私だったらそんなに静に行動できないし、私と兄のことも助けてくれたからです。お父さんとお母さんが私のお父さんとお母さんでよかったと思います。

たくさんの人のおかげで助かったこの命を大切に生きていこうと思います。



家族の命

広島市立庚午小学校 藪下 一樹

三月のぼくのたん生日、ママが言った。

「赤ちゃんが生まれるの。」

最初は自分の耳をうたがったが、すぐに喜びに変わった。

この時初めて、ぼくは命の大切さを実感したような気がした。妹も弟もいるので、三回目に聞いた言葉だけど、これまでは

「やった。」

と声に出すだけだった。

でも今は、学校で保健の勉強をしたり、命のたん生について家族と話をしたりした時に、自分は愛されて生まれたことを知った。だから、命は大切だと思う。今、家族全員赤ち

やんのたん生を楽しみにしている。

その日からぼくはママのところへかけより、

「おーい弟ー。」

と、ママのおなかにさげんだ。最初のころはあまり動かなかったが、最近はよく動く。生きている証だ。

おなかに赤ちゃんがいるから、ママは体がしんどい時もあるみたいだ。でも、ママはぼくたち家族のために毎日がんばっている。妹や弟が生まれた時はあまり手伝っていなかったが、今は五年生なので、手伝いをたくさんしたい。命は大切なものだ。



家族って

広島市立矢賀小学校 中川 ほのか

私たちの家族はよく遊びに行きます。お父さんが計画をたててつれていってくれます。夏休みには、福岡県、大分県、熊本県に行きました。お父さんがたてる計画は、だんどりがよくて私も弟もととても楽しめます。たくさん所に行くことで、都道府県の知識がふえたり、緑豊かな自然が好きになりました。

また、たくさん遊んだ後は、カメラでとった写真を現像して、お母さんがアルバムにまとめます。このアルバムは、私が産まれる前からあって、今でもふえつづけています。今では二百四十枚入るアルバムが十二さつ目になりました。こうしてお母さんがアルバムに

写真をまとめてくれているから、小さいころの写真を見返すことができます。ときどきみんなでアルバムを見ながら、

「こんなことがあったね。」

「ここにまた行きたいなあ。」

などと、家族での会話がはずみます。

お父さんが計画を立ててくれて、お母さんがアルバムにまとめてくれたり、たくさんすることしてもらって、この家族でよかった、大人になってもこんな毎日が続いてほしいと思います。



ぼくとひいおばあちゃん

広島市立山本小学校 氏川 晃希

ぼくのひいおばあちゃんは、今年で八十六歳になりました。尾道に住んでいるので、すぐに会いには行けないけど、行った時には必ず話をしたり、一緒に遊ぶ事もあります。

ぼくと妹は、お母さんが里帰りをして産んだため、しばらく実家に帰っていたその間、ひいおばあちゃんに、よく抱っこやおんぶをしてもらってねていたと、お母さんから聞いた事があります。

小さいころの覚えている事は、ボール遊びや散歩、畑仕事をしている姿を見つけては、そこへ行き、一緒に虫を探してもらっていた事です。そんな元気だったひいおばあちゃん

も、高れいになり、昨年、ひざの手術をしてからは、あまり一緒に遊ぶ事が難しくなりました。

ぼくは、産まれてから日々成長し、いろんな事が出来るようになったけど、ひいおばあちゃんは、歳を重ね、だんだん体が動かなくなってきたのを見ると、なんだか少しさみしい気持ちになります。

これからも、今までたくさんかわいがってもらった分、いろんな話をしたり、やさしく接し続けたいと思います。そして、いつまでも元気で長生きしてもらいたいです。



おばあちゃんのたまご焼き

広島市立みどり坂小学校 井上 璃乃

私はおばあちゃんのたまご焼きのひみつを知りたいです。理由はお母さんが作ったたまご焼きもお店のたまご焼きもおばあちゃんのたまご焼きとはちがうのでずっと気になっています。おばあちゃんに聞いてみてもいいけど、ナゾにしておきたいような知りたいようなへんな気持ちです。そして私はオリジナルのたまご焼を作りたかったので作ってみることにしました。最初は白だしなどをいれてももちがったのでしおをいれてみたりしました。でも、ちがう。そして何度もためしてみてもついに見つけたんです。それは、さとうだけだったんです。そんなに簡たんだったなん

て思わなかったんです。とにかくふうをすることを思っていたけど考えすぎていたようでした。そしてがんばっておばあちゃんに聞いてみたら、さとうだけだったのです!!それからおばあちゃんといっしょに作ってたまご焼きをキレイに作れるようになっていつでもおばあちゃんのおいしくてあま～いたまご焼きを作ることができます。ほかにもお母さんはおばあちゃんのキャベツの千切りのはやさにおどろいていてまねしたいと思っているのですがそうかんたんにはいかないようです。おばあちゃんの料理はだれにもマネできない。



お母さんの生活の支え

広島市立安西小学校 山縣 京夏

わたしは、夏休みの日には毎日、お母さんが仕事に行く時、ハグをしています。

わたしが、毎日ハグをする理由は、大好きな家族とハグをすると、一日ががんばれそうな気がするからです。勉強をするのがめんどくさいと思った日でも、お母さんが、ハグをしてくれたり、「がんばってね。」と、応えんしてくれるので、一日をがんばろうと思えます。お母さんはどう思っているのか、気になったので、わたしは、「お母さんって、いつもの見送り、何かためになってる?」と聞きました。するとお母さんは、「いつもの見送りは、仕事につらい事があっても、がんばれるきっか

けになってるよ。」とっていました。その時、わたしははじめて、自分の少しの行動が、お母さんの生活の支えになっているという事を知りました。また、お母さんからの言葉に、家族の愛を感じました。

わたしは、お母さんの言葉をきっかけに、お母さんだけじゃなく、妹や姉やお父さんにも、お見送りをしようと思いました。また、お見送りをするだけでなく、何か言葉をかけたりして、家族を支えていこうと思います。



「待ってるからね。」

広島市立本川小学校 大久保 謡

母に言われた時、とてもうれしかった言葉があります。それは、

「謡がだれかに誘拐されたとしても、ずっと待ってるからね。二十年でも三十年でも、ずっと待ってるから。大好きだよ。」

きっと親という人は子を愛していればそんなことあたりまえ…なのかなと思いました。ですが、この世の中には子供に暴力をふるったり殺したりする親もいます。そんなこと一回もされたことのない僕は、ニュースなどでそういう子がいるということを見ながら「ひどい」とか「かわいそう」とか思いつつ、僕には関係ないと思っていました。ですがあの言葉

を言われた僕は、本当にこの家に生まれたこと、この父と母を選んだことを心からうれしく思い、こんなに深い愛情で僕を育ててくれたことを感謝しました。

たった一つ、母のあの言葉にまちがっているところがあります。

それは、最後の「大好きだよ」の所です。何がまちがっているかって？それは僕のほうが母のことが百億倍大好きなので大好きなのは母だけでなく僕もだよ。という所です。



弟のこまりごと

広島市立神崎小学校 熊野 加寿文

ぼくには、二つ年下の弟がいる。弟はあまえばうで、ぼくが物心ついた時からいた。

弟には小さい時から困らされている。母の書いた英語の紙を食べられたり、(ぼくにもその時弟が大丈夫だったのかは分からない)不思議なちょっかいを出してきたり、夜には安眠をさまたげるように、ねる場所をうばったり、ぼう力もしてくる。今は、じゅくもあり忙しい日が多いが、いつも遊んでくれる兄が遊んでくれず、弟はつままない、と駄々をこねる。ぼくはいつもこれにほとほと困り、ときどき嫌いになる。

しかし、それでもなぜか弟のことを許して

しまう。どれだけ悪いことをしても、なぜか許す。そして、また一緒に遊ぶ。これの、理由が分からない。ちょっかいを出されても、その日のうちに水に流される。いたずらもされても、知らず知らずのうちに、仲直りをしている。夜ねむれなくても、朝になったらかわいい。そんなことが唯一起こりうる場所、それが家族だ。

家族は、きずなで結ばれている。きずなは、目に見えない。ぼくと弟は、人一倍きずなが強いのかも知れない。でも、ぼくは、両親も好きだ。そう考えると、きずなは不思議だ。



元気のひけつ

広島市立口田東小学校 岡本 彩柚菜

「元気だね。」これは、わたしが幼稚園のときから言われつづけてきた言葉です。

なぜ、わたしが「元気だね。」と言われつづけてきたのかというと、幼稚園では一日も休まなかったし、小学校でもほとんど休んでいないからです。

わたしが、ほとんど休まずに学校に行けるのは、家族に大切にされているからだと思います。例えば、わたしのために、一生けん命働いてくれたり、わたしのために、毎日ごはんを作ってくれたりしていることです。それから、わたしがかぜをひいたときには、すぐに家族全員が気づいてくれて、病院に連れて行

ってくれます。そのおかげで、わたしはいつも早くかぜが治って元気になります。そして、わたし以外の家族のだれかがかぜや調子が悪いときは、調子が悪い人以外でかん病したりして早くよくなるように家族みんなで協力します。

わたしは、このように家族みんなで協力して生きているということがわたしにとっては、特別な家族の愛だと思います。これからも、家族みんなで協力しあうということを忘れずにしていきたいなと心の底から思いました。



三姉妹

広島市立伴南小学校 飯間 夢夏

私は三姉妹の真ん中です。お姉ちゃんは三つ年上で、妹は五つ年下です。

外でだれかに会うと、「あら～、三姉妹で仲良しで良いわね～」と言われることがあるけれど、私は一人っ子の方が良いのに、と思います。洋服はおさがりじゃないし、ほしい物も買ってもらえるし、おかしも半分こしなくて良いし、お母さんだって一人じめできます。三姉妹じゃなかったら、良いことばかりだと思っていました。

でも、一人っ子だったら、面白い動画を見ても一緒に笑うことができません。お出掛けの車の中で、はしゃぐこともできません。留

守番の時は一人ぼっちで待っていなければいけません。お母さんとケンカした時、私の話を聞いてくれる人もいません。

色々考えていたら、やっぱり三姉妹で良かったと思うことがたくさんありました。私は三姉妹の真ん中だから、お姉ちゃんも妹もいて、ラッキーです。お姉ちゃんにはあまえられるし、妹には「お姉ちゃんすごい！」と言ってもらえます。だから真ん中で良かったです。これからも、大人になっても、ずっと姉妹で仲良くしたいと思いました。



かぞくのやさしさ

広島市立安西小学校 今岡 耕佑

ぼくは友達にわるいことをした。地いきの人にもめいわくをかけた。その時お母さんはすごくこわくて泣いてぼくをおこりました。先生にもいっぱいちゅう意をされた。

お父さんが帰ってきてそのことをお母さんとぼくと三人で話し合いをしました。お父さんは、優しくこんなことをしていい？こんな時はどうするの？とひとつひとつぼくに聞いて教えてくれました。お母さんは悲しい顔をして自分がされていやなことは絶対にしないこと、自分がされたらどう思うんねーと泣きながら言われました。ぼくは悪いことをしてしまったんだ、遊びだと思っていたのにちが

ったんだととても反省しました。

次の日から夜、お母さんとさんぼをしてお母さんがはなしをしていました。次の日はお父さんとお母さんとぼくとさんぼに行きました。三人で手をつないで歩きました。とてもうれしかったです。ぼくはお父さんとお母さんもとても心配してくれているんだと思いました。ぼくはもう悪いことはしないようにしようと思いました。

お父さんとお母さんはこまった時にいつも話し合いをしてくれます。家族でたくさん話すと元気になるんだなと思いました。



私のたん生日

広島市立安西小学校 林 里紗

毎年私のたん生日の日、お母さんはいつも言ってくれる言葉がある。

「産まれてきてくれてありがとう。里紗はママの宝物だよ。ずっと味方でいるからね。大好きだよ。」と言ってくれる。私はその言葉を聞いて、うれしくてとても幸せな気持ちになる。

だから、お母さんに私も

「生んでくれてありがとう。お母さんの子どもで良かった。大好きだよ。」と言う。そしたらお母さんは、笑顔でぎゅっと私のことをだきしめてくれる。私は毎年、自分のたん生日が来るたびに、お母さんの言葉を聞いて、

自分がとても愛されていて、今まで大切に育てられてきたのだと感じる。お母さんが味方でいてくれるから、もしこれからつらいことがあったとしてもがんばってのりこえていきたい。

私を産んでくれた日、私のたん生日が大好きだ。そして、私のことを産んでくれて、いつも大切に思ってくれているお母さんは、世界一大好きだ。



ぼくのおばあちゃん

広島市立東浄小学校 甲斐 直輝

ぼくのおばあちゃんは、すごいおばあちゃんだ。ぼくのお母さんが6才のころ、おばあちゃんは肺がんになり、お医者さんには、余命半年しかないと言われていました。それでもおばあちゃんはあきらめず、いのりました。その結果、お医者さんがおどろくほどの回復力でがんを克服した奇跡のおばあちゃんです。

そんなおばあちゃんはぼくや弟の事を第一に考えてくれていて、誕生日や何かある毎に「なんでも好きなもの、食べなさい。」と、言ってくれます。また、ぼくが英語を勉強しているときには、英語で手紙が届いたり、

その試験のときには始まる前や終わった後など、電話やメールをしてくれます。

ぼくは、手紙や文章を書くのにたくさん考えてしまうので時間がかかります。そんな手紙を何度も届けてくれて、ぼくは嬉しいです。英語で書かれた手紙に“Never give up is important and treasure spirit!!”とありました。決してあきらめないことが大事で、宝の精神だ!!というメッセージは、しっかり届きました。ぼくもおばあちゃんのように、あきらめず努力していける人になりたいです。



みんなの応えん

広島市立八幡小学校 神谷 望愛

私が試験の時、会場に向かう前にならずみんなが、

「がんばってね。」

と応えんしてくれる。お母さんは、私がかんちょうしていると、

「大丈夫。落ち着いてやるんよ。」

と言ってくれる。みんなが私のためにいろいろ言ってくれたりして、かんちょうしていたのが、だんだん心がやわらかくなっていった。それから、試験の結果も良い。それは、自分が、がんばった成果でもあるし、みんなの応えんのおかげでもあると私は思う。

他の大会でも、応えんと、自分達の成果で

良い結果になる。

だから、私が思う家族のきずなとは、みんなの応えんだと思う。なぜなら、きずながあるからこそ応えんしてもらえるし、家族の応えんだと他の人からよりも心強い気がして、自分の心が安心したり、やわらかくなるからです。応えんする人は、家族だからこそ、気持ちを伝えずにはいられなくなると思う。

これからも、私が思う家族のきずな、みんなの応えんを大切にいろんな事をがんばっていきます。



弟の入院

広島市立可部小学校 叶谷 汰貴

昨日のことです。保育園から帰って来た弟が、急にせきが止まらなくなりました。ずっとせきが続いて苦しうでした。ちょうど夕飯時だったけど、

「おなかが痛いよー。しんどいよー。」

と、とうとう泣き出しました。ぼくはすごくしんどそうだなと思いました。せきはどんどんひどくなって止まりません。お母さんは仕事でおそくなってまだもどって来ません。おばあちゃんがすごく心配して、せなかをさすったり、吸入器を使ったりしていました。そのうち弟は泣きながらねてしまいました。

夜中にせきがまたひどくなって、お母さん

が病院に連れて行きました。ぼくは病院に行ったことを全く知りませんでした。弟はそのまま入院してしまいました。いつもは元気な弟なのに急に入院するなんて思いもしませんでした。ぼくは一日中、弟を心配していました。病院ではさんそ吸入してもらってるそうです。お母さんが弟といっしょにいてあげているので弟も安心していると思います。今日の朝、電話がかかってきて、弟の声を聞きました。少し元気になったとぼくはほっとしました。早く退院して元気な弟に会いたいです。



「いつもいっしょ」「いつもありがとう」

広島市立三入小学校 住吉 麻衣

「いつもいっしょ」これはある絵本に出てくる言葉です。私はこの絵本を、幼稚園のころに、よく読んでもらっていました。そしてこの言葉と、いつもありがとうという言葉が家族でよく言ってからねるようになりました。

私は、この言葉を毎日欠かさずに言っています。そして、この言葉は、家族みんなが大好きな魔法の言葉なのです。どうしてこの言葉が好きなのかというと、

- 一、その本のように、いつもいっしょにいたいと思っているから。
- 二、いつもありがとうと言われたら、うれしい気持ちになり、安心できるから。

です。私は小さい頃からお母さんに毎日絵本を読んでもらっていました。その中で、一番心に残っているのが、この絵本です。

みなさんは、家族との会話の中で、心に残る、魔法の言葉はありますか。その言葉をおさめておくと、これから先に、くじけそうな事があっても、「自分は一人じゃないんだ」と思え、気持ちが前向きになれると思います。

いつもいっしょ、いつもありがとうという言葉は私と家族にとって、いつも仲良く、やさしい気持ちになれる大切な言葉です。



ひいおばあちゃんのおたん生日

学校法人 鶴学園 なぎさ公園小学校 水岡 桃子

私のひいおばあちゃんは今年の夏、九十八才のおたん生日の日に、しせつでおだやかに息を引き取りました。

なくなる一年半前までは、私のおじいちゃんおばあちゃんと一緒に住んでいました。二人は、毎食のごはんの用意、洗たくやそうじ通院など、たくさんの身の周りのことをしてあげていました。自分達のことよりも、ひいおばあちゃんのことを一番に考えていました。そんな二人のことを少しでも手伝いたいと思い、遊びに行った日は、食事前のさんそポンベのい動や、血圧測定のお手伝いをしました。いつも、「よう来てくれたね、ありがと

ね」と言ってくれていました。私に会えるのをとても楽しみにしてくれていました。

ひいおばあちゃんは、九十八才のおたん生日をむかえることができました。たくさんのしせつの方々や、家族みんなのやさしい気持ちのおかげと、ひいおばあちゃん自身のがんばりがあったからだと思います。

大正・昭和・平成・令和の四つの時代を生きたひいおばあちゃんの強さと、最期まで見送った家族のやさしさをこの夏に、感じることができました。ひいおばあちゃん、空から見守っていてね。



ぼくのお姉ちゃん

広島市立五日市南小学校 金田 湊佑

ぼくには五才はなれたお姉ちゃんがいいます。お姉ちゃんは最近とてもつめたいです。

ぼくはひまなとき赤ちゃんのときの写真をよく見ます。その写真にはぼくはもちろんお姉ちゃんもいます。その写真ではぼくとお姉ちゃんがいっしょに遊んでいます。写真のお姉ちゃんはぼくにたいしてぜんりよくで遊んでくれている写真があります。ほかにぼくが泣いているときお姉ちゃんの変顔をしてくれます。その写真のぼくはとても喜んでいません。小さいころの写真を見ていると今でもぼくがおつかいに行くときにお姉ちゃんは何回も「大じょうぶ。」と気にしてくれたり、ぼく

が留守番するときも心配してくれていたことを思い出しました。よく考えるとぼくに勉強を教えてくれた時にきびしかったのもぼくが分かるようになるように一生けん命指導してくれていたからで、ふだんの生活でおこられる時もぼくが悪いことをしたことに注意してくれていたのだと気づきました。お姉ちゃんは口調が強くてきびしいけどぼくのためにいろいろ考えてくれたり楽しいことをしてくれるやさしいお姉ちゃんです。

ぼくはそんなきびしくもやさしいお姉ちゃんがとても大好きです。



やさしい認知症のおばあちゃん

広島市立五日市中央小学校 大瀬戸 咲紀

私の鹿児島のおばあちゃんは、認知症だ。

私とお母さんと、鹿児島まで行っておばあちゃんに会いに行ったことがある。おばあちゃんの家には、ねこがたくさんいて、おばあちゃんは、いつもねこたちにごはんをあげている。

だが、こないだ正式におばあちゃんの家でかっていたももというねこが死んでしまった。

おばあちゃんも悲しそうにしていたが、ももが死んでしまったことを忘れて、今でもたまに、「もも。」と名前をよんでしまうことがある。その度に私はなんともいえない悲しい気持ちになってしまう。

そんな認知症のおばあちゃんでも、なんでもかんでも忘れてしまっているわけではない。たまにたまごやきの作り方をおしえてくれたり、私をおぼえていてくれたりする。

お母さんたちは、これからも大変だろうけど、認知症は変と認しきしないでほしい。中身はちゃんと、やさしいおばあちゃんだ。

そんなおばあちゃんを、私は、これからも大切にしていきたい。



わたしといとこ

広島市立皆実小学校 中西 優衣

わたしには、二才年上のいとこがいます。名前は、あゆ。同じ家に住んでいるので生まれた時からずっといっしょです。

母同士が姉妹なので、どこか似ていて、よく姉妹にまちがわれますが、性格はまるで反対です。わたしは時間をきっちり守って計画通りにするのが好きですが、あゆはマイペースで、おおざっぱなところもあります。好きな遊びや食べ物、考え方も全くちがうので、毎日ケンカしてばかり。あゆがいなければこんなにイライラすることもないのと思うこともあります。

でも、今年の春からあゆは中学校に入り、

じゅくやクラブ活動で家にいないことが多くなりました。昨年までは同じ小学校に通い、学校でも会えたのにとすると、少しさびしくなることもあります。学校をいっしょに登下校したり、欠席する時には連らく帳も持って行ってくれたりしたのに。

お姉ちゃんのようにずっとそばにいてくれたあゆは、わたしがまだお腹にいたころ、

「わたしがこの子のお姉ちゃんになってあげる」と言ってくれたと聞きました。

これからもケンカをすると思うけど、ずっと仲良しでいてね。本当はあゆが大好きだよ。



いつも家族はわたしの味方

広島市立伴南小学校 佐々木 理花

私は、学校であったことで、「自分が悪かったな」と思った時は、お母さんに思い切って相談します。そんな時、お母さんは、私の気持ちによりそってくれ、決して強くおこらず、次からはどうすればいいかアドバイスをしてくれます。

お父さんにも、話を聞いてもらうこともときどきあり、お父さんもアドバイスをくれることがあります。

私がお母さんやお父さんにいろいろなことを相談するのは、相談すれば、お母さんやお父さんは必ず優しく話を聞いてくれるので、モヤモヤした気持ちがふき飛んで、スッキリ

するからです。

アドバイスをもらって、その通りにすれば、大体は上手くいくので、とても不思議です。

こんなふうに、どんなことでも自分の話を聞いてくれる人がいるなんて、私はとても幸せなんだな、と思いました。

これからも、ずっと相談に乗ってもらえるように、家族との時間を大切にしていきたいな、と思いました。



お花

広島市立大町小学校 西川 聖菜

八月二十日、おばあちゃんの命日だった。命日だから、お花をお母さんと選びに行った。

お店に行くとたくさんのお花が置いてあった。近くにおばあちゃんの好きなヒマワリがあって選ぼうと思ったけど、どうやら一週間前のおばあちゃんの誕生日で選んだらしい。だからヒマワリを選ぶのをやめた。そういえば、おばあちゃんはピンクが好きだから、暖色のお花を探してみた。そうしたら、小さくて丸い紫とピンクのお花を見つけた。すごくいいお花だと思って、それを選んだ。あとはそのお花に合わせて、うすピンクの花、白の花、葉っぱも合わせてみた。レジをすませて、

車にもどると中にお母さんが、

「色のバランスがいいね。」

と言ってくれた。初めて選んだから、うれしかった。お墓についてお花を供えた。線香をたてて、手を合わせた。心の中で、おばあちゃんに

「お花は私が選んでみたよ。」

と言うと、お父さんが

「おばあちゃんが喜ぶね。」

と言って帰った。

来年もおばあちゃんに喜んでもらえるお花を選びたいと思った。



温かくなるまほう

広島市立伴南小学校 木戸 実咲

私は、元気になりたい時に、私が小さかったころの動画を見ています。

その動画は、私が0才のころのものや、小学校入学までのころの動画などがたくさんあります。

その動画の中でも、私が一番好きなのは、生まれてまだ三か月の私に、お兄ちゃんが楽しそうに話しかけている動画です。私が笑うとお兄ちゃんが、

「笑った。」

と、とてもうれしそうにしています。その様子を見ると、どんなにつかれていても、そのつかれを元気に変えてくれます。そして、家族で見

ると、家族が笑顔で温かい気持ちになります。私は、その時間が大好きです。

私の家族は、たまに小さな事でもけんかになることもあるけど、私は、思いやりのある家族のことが大好きです。だから、そんな家族に、感謝の気持ちを持つことをわすれずに、これからもすごしていきたいです。



ぼくのじまんのお母さん

広島市立五日市観音西小学校 柚木 希心

とつぜんですがぼくは小麦アレルギーをもっています。生まれたときからいままですと小麦アレルギーでした。

小学校は、みんな給食だけどぼくはお弁当です。朝五時三十分ぐらいにお母さんがおきてお弁当をつくってくれます。なのでいつもつかれています。ぼくはお弁当をのこしてしまうこともしばしばあります。

ある日、ぼくがお弁当をのこして家に帰ってきたときふとのこったものをすてているところを見ました。お母さんはすこしかなしそうな顔をしていました。そのとき前の家庭科のじゅぎょうの料理のことを思い出しまし

た。そのときはたいへんではんの人とやってもなんとかできたかんじでした。このとき、朝早くおきてつくってのこされる気もちがわかりました。ほんとうにもうしわけない気持ちでいっぱいでした。

お母さんはつかれていてもぼくのためにがんばってくれるじまんのお母さんです。なるべくお弁当をたべてお母さんをえがおにして、お手伝いして元気にしたりできるようがんばります。



家族がふえた日

広島市立五日市東小学校 角家 治樹

ぼくは今年、人の命の大切さを知りました。それは、10さいはなれた弟が生まれたことです。

ある日、お母さんの体調が悪くなり、病院に行くとおなかに赤ちゃんがいることが分かりました。その日からぼくはいつもより多くお手伝いをしました。お買い物にいくと荷物を持ってあげたり、お風呂をそうじしたりしました。

お母さんのおなかが見るたびに大きくなることにぼくはびっくりしました。本当にこのおなかの中に人間が入っているのか不思議でした。

そして予定日より早くお母さんは病院に行き、ぼくは、いつも通り学校に行きました。1日中そわそわしました。下校してすぐ病院に行くと、本当に赤くてしわしわの赤ちゃんがいました。初めてだっこすると、赤ちゃんの小ささにびっくりしました。とてもかわいかったです。

ぼくは、弟と10才という差がありますが、ぼくはいつでもたよってもらえるお兄ちゃんになりたいです。



妹が生まれてから

広島市立井口明神小学校 木下 直

ぼくには依菜という妹がいます。七月二十九日に二才の誕生日をむかえました。妹が生まれる前までは、二才年上の兄と二人兄弟でしたが「お兄ちゃん」になるとは思っていませんでした。ある日父が、

「ママから発表があります。」

と言いました。そして、

「ママに赤ちゃんができました。」

と続けました。ぼくは「へえそうなんだ」と思いました。「妹」というものができて、ぼくは「兄」になれました。

妹は人が持っている面白そうな物をほしがります。悪いことをしたときはカーテンのか

げにかくれます。「おさるのジョージ」のアニメが好きです。新聞紙や紙をたなから引っぱって落とします。妹が生まれる前より、早いスピードで部屋がきたなくなります。だから、おもちゃを散らかして片づけないときはぼくが片づけてやります。

ぼくがミカンを食べていたら指さしてほしがります。一ふくろあげると頭を下げて「うん」とお礼を言います。まだあまりしゃべることができませんが、見ているといやされます。かわいい妹です。



産まれたての赤ちゃん

広島市立長束小学校 平中 蜜倅

私が命の大切さを実感したときは、産まれたての妹のへそのおを切ったときです。産まれたばかりは、ピンク色になっていました。はだもしわしわでした。ものすごく泣いていました。でもかわいかったです。最初は目があいていませんでした。私がへそのおを切ったときは4さいぐらいでした。へそのおの色は、少しにごっているようなうめいな色でした。へそのおを切った時の想像は、チョコキンとすぐ切れると思ったけど、あまりチョコキンとはならず、チョコキンみたいな感じでした。頭はやわらかかったです。産まれたばかりだったからあまり毛がはえていませんでした。

数分たったら泣きやんで、はだ色になってきました。ゆびも、ものすごく小さかったです。はだもふにゆふにゆしていました。ひざも小さかったし、頭も小さかったです。でも今はひざもゆびも頭も、産まれたときより大きくなっていました。目もあいてました。ぱっちりした目でかわいかったです。キョロキョロとまわりを見ていました。お母さんがだっこしていました。産まれたばかりのときよりかわいく見えました。なぜ産まれたばかりは目があいてないのか泣いているのか不思議だけど、私はへそのおを切ったことをわすれません。



おじいちゃんとお父さん

広島市立矢賀小学校 高須 美玖

私のおじいちゃんは、2年前になくなりました。そのときに、私はおじいちゃんのおでこをさわってみました。すると、おじいちゃんのおでこは冷たくなっていました。そのときに私は、もうおじいちゃんには会えないんだと思いました。すごくさみしかったです。

その日の夜、みんなねていたけど、私はなぜか目がさめました。すると、だれかの声が聞こえたので気になって私はそっとすわってみました。その声は、お父さんでした。お父さんは泣いていました。お父さんの泣くすがたをあまりみたことがなかったので、私はびっくりしてあわててねたふりをしました。お

父さんは、おじいちゃんと二人で話をしているようでした。私は、みんなの前では泣いていなかったけど、本当はかなしかったんだと気付きました。だって、お父さんにとってのお父さんはおじいちゃんなんだから。

私は、初めて人が死んだ場面を見て、人間はいつかは死んでしまうんだと気付きました。でも、おじいちゃんとお父さんのすがたを見て、死んでもお父さんの心の中にはおじいちゃんは生き続けているんだと思いました。私の心の中でもおじいちゃんとの思い出は、今でも生きています。



母のギュッ

広島市立祇園小学校 高木 愛

私は、産まれる時なん産でした。母は、病院でてい王切開の説明を受けた時に15分位で赤ちゃんに会えますからねと聞いて息子の時と同じだから大丈夫と思ったと聞きました。

出産当日母はドキドキとワクワクのまま手術室へ向かいました。手術が始まり子供に会える気持ちでいっぱい、一秒でも早く会いたいと…。しかし、私は15分たっても産まれず、母はおなかをぐりぐりとされ、周りがざわつき始め、きゅう引器で私が引っぱられ、母はずっと、

「どうか子供を助けて、この子を守って。」

とずっと言っていたそうです。母の血圧が下がり、意識が遠くなる中母は、私を笑顔でだきしめている姿を見たそうです。母は、絶対にこの子をだきしめる。どんな事があっても、強い思いで大変な出産を乗り越えてくれました。

私が産まれた日から毎日必ずだきしめてくれます。

母のギュッが私の宝物です。

あの日がんばってくれた母に感しゃしています。

そんな母が、やっぱりすごく大好きだなあ〜と、思います。



母の料理

広島市立筒瀬小学校 松本 智紘

ぼくの母は、いつもおいしい料理を作ってくれる。夕方、ぼくが宿題をしているとキッチンからとてもやさしいにおいがする。そのやさしいにおいは、いつもぼくをはげましてくれる。

母の料理で一番好きなのは、たまご焼きだ。ふんわりとしていて、おいしくていやされる。でも、ぼくはそのたまご焼きを作ることができない。そこで母に入っているものを聞いてみた。すると、だしとみりんが入っていると教えてくれた。ただ、その通りにぼくが作っても、母のようなたまご焼きを作ることではできなかった。何がちがうのだろうか？よく考

えてみた。母は愛情をこめて作っているのかもしれない、ぼくを応援してくれているのかもしれない。そこがちがうのではないかと。でも母は、大して何も考えずに作っていると言う。ぼくは、絶対ちがうと思う。たとえばたまご焼きの分量は量ってなくても、母からの愛情は感じている。いつもすべての家事を家族のためにやってくれてる母だから。

このように、母はぼくに元気を与えてくれている。だから今度は、ぼくが母に元気をあたえる番だ。ぼくも母に愛情をこめて、たまご焼きを作ろうと思う。



おばあちゃんへピアノの手紙

広島市立五日市小学校 大林 加奈

おばあちゃんがほめてくれる。そのことが私にとってピアノをひく理由の一部でした。一曲ひいてふり返ったらおばあちゃんはこのこしながらほめてくれました。私はほめられるとびるタイプだから指示されるよりほめられた方がうまくなっていきました。おばあちゃんが出かけているときはやる気がおこりませんでした。あるときおばあちゃんのがんの病気が見つかって入院することになりました。もちろん私のやる気はなくなってしまいました。三週間後にたい院すると聞いたのでそのときに向けて練習しました。でも病院からもどってきたおばあちゃんは立てる元

気もありませんでした。でも、別室でねているおばあちゃんに聞こえるように、音量をあげて曲をひきました。ひきおえておばあちゃんの部屋にいくと入院する前のようにほめてくれました。でも病気は悪化してなくなってしまいました。今までのことを思い出して私はいっぱい泣きました。めったに泣くことのないお父さんやおじいちゃんも泣いていました。おばあちゃんは愛されていたんだと思いました。今、天国にいるおばあちゃんが悲しくならないように、天国へ向けてピアノをひきたいと思います。



面白ばあばとゆったりじいじ

広島市立舟入小学校 青山 雫

私のばあばはよく、奇跡の誤字メッセージを送ってくる。例えば、私の誕生日を祝ってくれた時は、「お誕生日おめでと〜う」と送ろうとしたらしいものを「お誕生日おま」と送ってきた。正直どうしていいかわからず、ひとまず「ありがとう」と返した。後から思い出すと、あれほど奇跡の誤字は他にないと思う。わたしは、いつも面白いメッセージを意図せず送ってくれるばあばがだいすきだ。ずっとメッセージのやり取りを続けたい。

私は、じいじもだいすきだ。じいじと私は、不思議な関係だ。ほんのりとした距離感を保ちつつ、たくさん喋る。それが、とても心地よ

くてすきだ。だから、ばあばん家に来た時、私はよくじいじの部屋に遊びに行く。でも実はもう一つ、じいじの部屋に行くのが好きな理由がある。じいじの部屋は、ばあばん家一番の避暑地なのだ。とても涼しく、気持ちがいい場所だ。私はベッドを占領して、作業中のじいじに話しかけたり、まったくテレビを見たりする。そのゆっくりとした時間が、だいすきだ。

面白いばあばも、ゆったりしたじいじも、本当に大好きだ。たくさんたくさん、長生きしてほしいと、強くおもう。



姉と母との約束

広島市立落合東小学校 仲野 隼人

ぼくには、ねる前に必ずすることがある。それは、お母さんとお姉ちゃんと、「大切に思っているよ」という気持ちを、おたがいに口に出して伝えることだ。これは、自分が小さいころ、お母さんの頭の病気が見つかり、無事に毎朝をむかえられるとは限らないからと、始めたそうだ。

だが、ぼくは、始めた理由は小さかったため、記おくには無いが、今はただ、やり続けている。

今の日本には自然災害がたくさん起こるため、日常があたりまえではない。だからこそ、家族に「大切にだよ」という気持ちを伝えた方が

良いと思う。ぼくはお姉ちゃんとけんかした日でも、必ずねる前に仲直りするようにしている。だがお姉ちゃんは、少しちがう。中学2年生ではずかしいのか、すなおに言ってくれない時もある。そして、実はぼくも、お母さんとけんかした時は、イライラして言わない時もある。約束だからとりあえず適当に言うときもある。

それでも、やっぱり、この約束を続けようと思う。だからみんなにも、ぜひやってみてほしい。

参加学校名

広島県モラロジー協議会が行いました「家族のきずな」エッセイ募集事業の目的にご賛同いただいた83校から、4962名のご応募をいただきました。

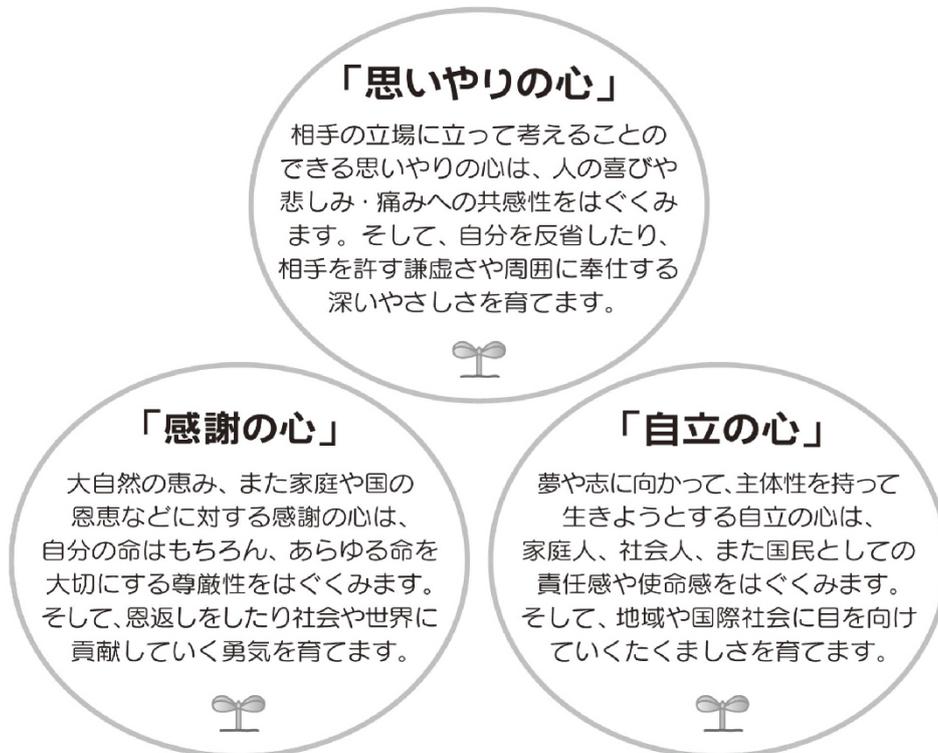
広島市立白島小学校
広島市立千田小学校
広島市立吉島東小学校
広島市立吉島小学校
広島市立広瀬小学校
広島市立本川小学校
広島市立神崎小学校
広島市立舟入小学校
広島市立温品小学校
広島市立戸坂城山小学校
広島市立東浄小学校
広島市立牛田新町小学校
広島市立矢賀小学校
広島市立荒神町小学校
広島市立大州小学校
広島市立青崎小学校
広島市立皆実小学校
広島市立翠町小学校
広島市立大河小学校
広島市立仁保小学校
広島市立楠那小学校
広島市立宇品東小学校
広島市立向洋新町小学校
広島市立天満小学校
広島市立観音小学校
広島市立南観音小学校
広島市立古田小学校
広島市立庚午小学校

広島市立井口明神小学校
広島市立己斐上小学校
広島市立高須小学校
広島市立緑井小学校
広島市立中筋小学校
広島市立古市小学校
広島市立大町小学校
広島市立毘沙門台小学校
広島市立安東小学校
広島市立安小学校
広島市立安北小学校
広島市立安西小学校
広島市立祇園小学校
広島市立山本小学校
広島市立長束小学校
広島市立原小学校
広島市立戸山小学校
広島市立伴東小学校
広島市立長東西小学校
広島市立伴南小学校
広島市立東野小学校
広島市立春日野小学校
広島市立落合東小学校
広島市立落合小学校
広島市立口田東小学校
広島市立三入小学校
広島市立可部小学校
広島市立可部南小学校

広島市立筒瀬小学校
広島市立日浦小学校
広島市立久地南小学校
広島市立倉掛小学校
広島市立瀬野小学校
広島市立中野東小学校
広島市立中野小学校
広島市立畑賀小学校
広島市立船越小学校
広島市立矢野西小学校
広島市立矢野小学校
広島市立みどり坂小学校
広島市立石内小学校
広島市立河内小学校
広島市立八幡小学校
広島市立八幡東小学校
広島市立五日市観音西小学校
広島市立五月が丘小学校
広島市立五日市中央小学校
広島市立五日市小学校
広島市立五日市東小学校
広島市立五日市南小学校
広島市立楽々園小学校
広島市立藤の木小学校
広島市立彩が丘小学校
広島市立石内北小学校
学校法人鶴学園なぎさ公園小学校

道徳で人と社会を幸せに

モラロジー教育では「3つの心」を育てます。



モラロジー(道徳科学)とは

モラロジー(Morality)は、「道徳」を表す(moral)と「学」を表すロジー(logy)からなる学問名です。日本はもとより世界の倫理道徳の研究をはじめ、人間、社会、自然のあらゆる領域を考察し、人間がよりよく生きるための指針を探求し提示することを目的とした総合人間学です。

公益財団法人モラロジー道徳教育財団

公益財団法人モラロジー道徳教育財団は、倫理道徳の研究と「心の生涯学習」を推進する研究教育団体です。大正15(1926)年に法学博士・廣池千九郎が創立、以来一貫して人間性・道徳性を育てる研究事業、社会教育事業、社会教育活動事業、出版事業、助成事業を展開しています。

広島県モラロジー協議会は、

公益財団法人モラロジー道徳教育財団より設置を承認された団体です。
よりよい社会づくりに貢献することを目的とした生涯学習活動を行っています。

企業協賛社

※50音順

IIS協同組合
アクト中食株式会社
株式会社あじかん
井辻食産株式会社
扇屋塗料株式会社
有限会社大方塗装
株式会社兼正冷熱工業
カヤ工業株式会社
有限会社カワブ管財
観音不動産株式会社
共栄金属工業株式会社
株式会社金融財務研究所
株式会社サコダ車輛
株式会社サニクリーン中国
株式会社さんびる
ジャトー株式会社 中国営業所
株式会社橘運送店
中国倉庫運輸株式会社
有限会社ハーティ・フーズ
株式会社原本木材店
株式会社ピーアンドピー
広島食肉市場株式会社
広島陸送株式会社
福留ハム株式会社
有限会社藤岡保険コンサルタント
株式会社古昌
株式会社文華堂
株式会社前田屋
有限会社ミヤヤス
株式会社山貴
山元勇治税理士事務所

広島東モラロジー事務所
広島中央モラロジー事務所
広島西部モラロジー事務所
広島安佐モラロジー事務所
広島鯉城モラロジー事務所

個人協賛者

※50音順

石田 直
和泉 尚美
井上 君枝
岩部 通夫
宇恵 清恵
大田 英樹
大坪 房江
小川 芳輝
沖本 弘至
鎌田 淳平
賀谷 興典
賀谷 勝義
賀谷 誠一
賀谷 千文
川本 通
川本 松夫
久保 忠
栗原 良子
古城 隆男
古城 保男
小山 幸子
小山 知苗
小山 勉
酒井 秀樹
櫻井 喜治
迫田 宏治
笹口 薫
笹長 久恵
進藤 郁朗
鋤田 晋二
須山 健司
高野 正明
高森 瑠美子
竹本 祥士
橘 睦子

田中 八代子
田能 公敏
鉄村 禮子
飛子 和義
中川 斎
中川 喜直
中島 章
中島 修治
中村 光子
二井矢 香予
畑 和宏
濱田 典雅
濱本 郁子
林 和代
原本 勝幸
福原 治彦
福原 康彦
藤岡 忠
藤田 和広
藤田 恭子
部谷 佳子
星野 勉
松井 洋之
松岡 かずえ
松岡 與吉
宮本 伊知郎
宮本 美佐代
宮本 善州
森原 敏行
森原 ミルエ
森山 和子
山城 英男
山本 悦子
吉清 皓一